



内海清温



米田正文



篠原武司

昭和32年度土木学会役員氏名

会 長	工博	内 海	清 温 (新任)	電源開発株式会社 総裁
副会長	工博	米 田	正 文 (留任)	建設省 建設技監
同		篠 原	武 司 (新任)	日本国有鉄道 鉄道技術研究所長
理 事	工博	東	寿 (留任)	運輸省 港湾局計画課長
同		飯 吉	精 一 (同)	鉄道建設興業株式会社 取締役業務部長
同		高 坂	紫 朗 (新任)	日本国有鉄道 建設局線増課長
同	工博	国 分	正 胤 (同)	東京大学教授 工学部
同		高 野	務 (同)	建設省 道路局道路企画課長
同	工博	中 安	米 藏 (同)	建設省 河川局計画課長
同		逸 見	正 則 (留任)	運輸省 東京陸運局鉄道部長
同	工博	丸 安	隆 和 (同)	東京大学教授 生産技術研究所
同		三 島	慶 三 (新任)	通商産業省 公益事業局水力課
同		米 屋	秀 三 (留任)	早稲田大学教授 理工学部

## 土木学会名誉員推挙者報告

### 工学博士 平井喜久松 君



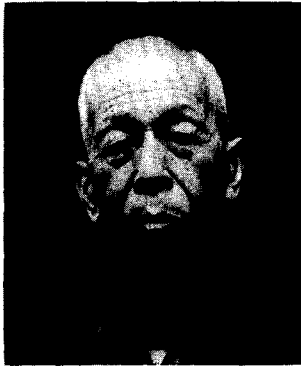
平井喜久松氏は明治 43 年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業後ただちに鉄道院に入られ、北海道の鉄道建設に従事され、大正 4 年から 2 カ年間米国へ留学、帰朝後本省に入り工務局改良課長、計画課長、東京改良事務所長、工務局長を歴任され、昭和 14 年退官されてから華北交通株式会社理事、満鉄副総裁の重任につかれ、終戦後鉄道建設興業株式会社に入社、監査役、社長を経て現在同社の会長で、また興和コンクリート株式会社の社長を兼ね、そのほか幾多の会社の運営に参画して土木業界に活躍せられています。

この間昭和 8 年工学博士の学位を得られました。

土木学会にあつては各種委員会の委員、常議員（現在の理事）、昭和 10、11 両年度の副会長、昭和 28 年第 41 代会長として学会の運営に非常に尽力せられたのであります。

以上のように斯界のため貢献せられた効績がまことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

### 工学博士 永井専三 君



永井専三氏は明治 33 年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業後京都帝国大学大学院に入り明治 37 年卒業され、住友別子鉱業所、宇治川電気株式会社および日本電力株式会社取締役、関西工学校校長、台湾電力技術顧問、同理事、宇治電ビル監査役、同社長を経て現在同社取締役会長として活躍しておられます。

その間大正 13 年工学博士の学位を得られ、昭和 9 年欧米各国の土木事業を視察されました。

土木学会にあつては昭和 4、5 両年度関西支部商議員、昭和 10 年度同支部長として支部発展のため非常に尽力せられたのであります。

以上のように斯界のため貢献せられた効績まことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。

### 工学博士 小野諒兄 君



小野諒兄氏は明治 37 年東京帝国大学工科大学土木工学科を卒業後ただちに鉄道院に入り、奥羽南線、羽越線等の鉄道建設計画に従事、のち中部鉄道管理局に転じられてからは、東海道線の大橋梁の調査補強、各大停車場の改良計画等に当り、大正 5 年から 2 年間米国に留学、帰朝後盛岡および岡山建設事務所長を歴任されました。

大正 14 年北海道大学に鉄道講座が増設せられた際、聘せられて教授となり、再び文部省から鉄道状況視察のため欧米に派遣され、帰朝後、同学で教鞭をとられ学生指導に当り、昭和 14 年には工学部長に補せられました。昭和 17 年停年退職されて同学名誉教授の称号を授けられました。

同氏は鉄道および大学御在任中から鉄道に関する御造詣深く、数多くの著書論文を發表し、また多くの特許を有しておられます。特に地下鉄道の施工法に関する御研究は最たるものであります。近年は北海道開発事業と緊密な関係を有する寒冷地住宅暖房の御研究に専心されておられます。その間昭和 6 年には橋梁に関する論文により工学博士の学位を得られました。

土木学会にあつては昭和 13~15 の 3 年間北海道支部商議員、昭和 16 年北海道支部長として支部発展のため非常に尽力せられました。

以上のように斯界のため貢献せられた効績まことに顕著でありますので、ここに土木学会名誉員に推挙いたしたいと存じます。